



感染予防対策のための効果的な洗浄方法

今回の洗浄方法は、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーション（標準予防策）に基づいてご案内します。

標準予防策の概念は、「すべての患者の湿性の血液・体液・排泄物等は感染の可能性のあるものとして取扱う。」です。

オペ使用器具には血液、たん白質、骨片が付着しており汚染されています。オペ直後の不注意な洗浄は、指刺し事故などの恐れがあります。

そこで、医療従事者の方の院内感染防止のために、「バイキラーサビーン」を使用した洗浄法をご案内します。

こちらのページをご覧になった院長先生が、歯科衛生士、助手の方にお伝えいただければ幸甚です。

（国際審美学会・事務局）

洗浄・滅菌の流れ

①



— オペ後の器具 —

浅めのバットに使用した器具をならべます。
浅めのバットを使用することで、バイキラー
サビーンの使用料を節約できます。

②



— バイキラーサビーンの原液に約15分間浸漬 —

～バイキラーサビーンの成分～

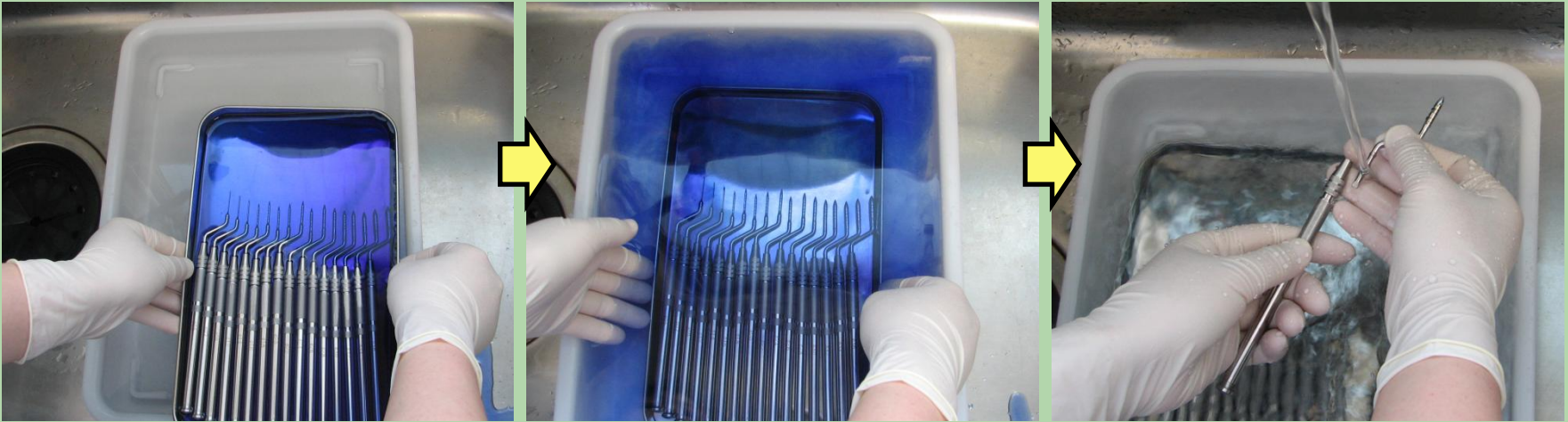
CAE0.5%、たん白分解酵素、エタノールアミン、カルボン酸、アルカリビンダー、防錆剤、色素、精製水、その他

CAEとは？

HBS抗原に高い不活性効果があります。不活性効果とは、微生物の活性機能を停止させることであり、殺菌、滅菌ではありません。

洗浄・滅菌の流れ

③



- ・ 飛散を防止するため、水を張った大きめの容器にバットとともに器具を入れます。
- ・ 器具を3パーツ（オーギュレーター、ハンドル、チャック）に分解し、洗浄します。

④



—超音波洗浄—

バイキラーサビーンを50～100倍に希釈し15分間洗浄します。

微細な汚れをしっかりと洗浄し、血液やたん白質を完全に落とします。

オーギュレーターは刃物ではないため、各サイズが混在しても、問題ありません。ボーンスリッターは刃先同士が触れ合わないよう配置、保護します。

洗浄・滅菌の流れ

⑤



—乾燥—

3パーツに分解したまま、よく乾燥させます。

⑥



—組み立て—

よく乾燥させた後、分解した器具を組み立てて滅菌箱にならべます。

洗浄・滅菌の流れ

⑦



—滅菌バッグ—

滅菌箱ごと、滅菌バッグに入れてシーリングします。

⑧



—最終処理—

オートクレーブ処理して完了です。

オートクレーブ滅菌の場合、乾燥時の熱やヒーター熱で、刃先に酸化被膜が発生しやすくなります。

水タンク内に「メタコートAR-H」を添加することで酸化被膜の発生を防止して刃物系器具の寿命を長持ちさせます。

「メタコートAR-H」はアルカリ性です。添加2ヶ月後には装置内も洗浄されるため、もらい錆などが発生しづらくなります。

メタコートAR-H



◆メタコートAR-H

オートクレーブへの添加量の目安

チャンバー径が200～260mmの機種では、1回の添加量は100ml。

通常は1週間に1回の添加で十分です。

途中で水を足した場合も、追加の添加は不要です。

その他の使用方法

熱焼けした器具の再生効果

右の画像は、メタコートAR-Hを添加していない滅菌器で滅菌したものの熱焼けを再生したものです。

メタコートAR-Hの5倍希釈液（水道水）に10分間浸漬するだけで熱焼け部分が除去されました。

5倍希釈液の有効期間は1週間です。

